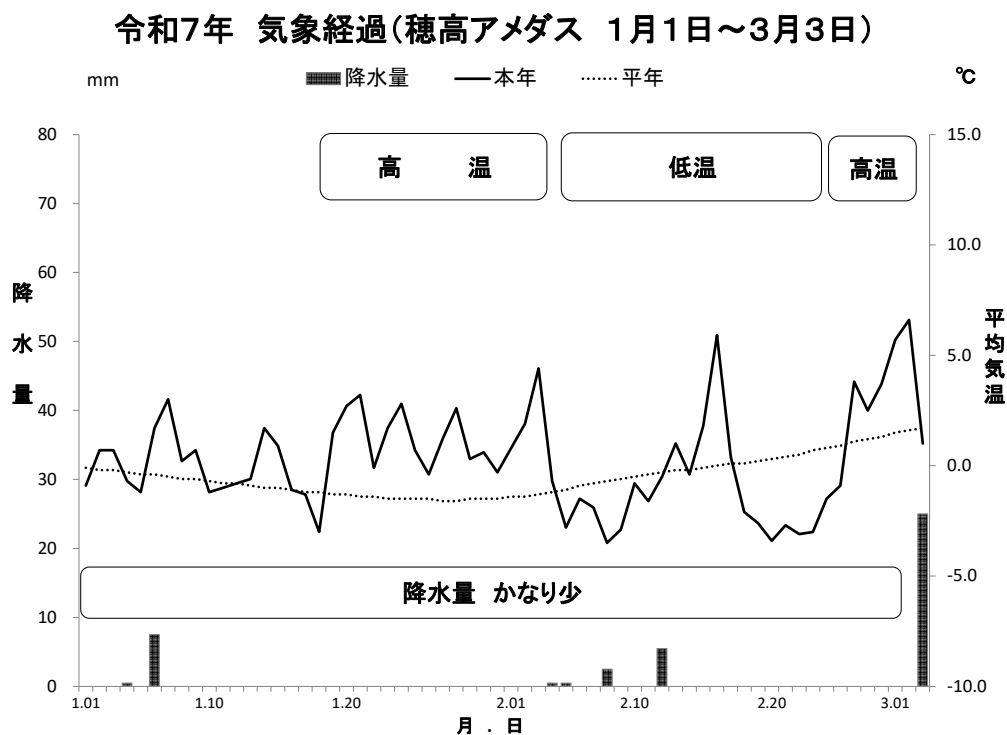


令和7年 作物技術情報第3号

（麦の1回目の追肥作業と、水稻の浸種作業の注意事項について）

1 気象状況



- ・ 1月は高温傾向したが、2月上～中旬は低温傾向でした。2月下旬以降は高温傾向になっています。
3月3～5日にまとまった降雪・降雨がありましたが、1月以降の降水量はかなり少ない状況が続いています。
- ・ 3月6日気象庁発表の1か月予想では、平均気温は高い確率で50%と予想されています。

2 現在の麦の生育状況と一回目追肥の注意事項

- ・ 2月中旬まで低温傾向が続いていたため、茎数の増加は緩やかでしたが、徐々に生育が進み始めています。3月以降は高温傾向が予想されていますので、麦の生育は急速に回復すると思われます。
- ・ すでに追肥作業が始まっていますが、追肥時には、再度生育状況を確認していただき、過剰気味の圃場では追肥量をやや控える、追肥時期をやや遅らせる等の生育にあった追肥をお願いいたします（追肥量や追肥時期の目安は技術情報2号をご参考下さい）。

3 水稻の浸種～催芽作業について

- ・ 水稻の浸種作業の時期が近づいています。浸種作業は育苗の重要なポイントです。基本事項を守り、育苗に向けた種子の準備を進めるようご指導ください。別添「水稻種子の取り扱い」もご参考下さい。
- ・ 昨年は登熟期間が高温に経過したため、出芽揃いを安定させるために、浸種初期の温度を低くしすぎないようにご注意ください。
- ・ 3月以降は高温傾向が予想されています。このため例年通りの浸種～催芽管理を行うと思ったより早くから芽が動き、伸びすぎてしまう事も予想されます（令和4年がこの様な年でした）。浸種～催芽作業にあたっては、今後の気温に注意し、芽の動きをよく観察して作業を進めるようお願いします。
- ・ ここ数年、大粒品種（特に酒米）や年産の古い種子で、発芽不良や出芽ムラが発生する事例が報告されています。この様な品種の浸種～催芽作業にあたっては特にご注意ください（可能でしたら、少量でかまいませんので、試しの浸種～催芽テストもご検討ください）。

- ・ 前年と同じに機械のセッティングをしたにも関わらず、催芽ムラや発芽不良といったトラブルが発生する事があります。

前年と同じセッティングとしても、催芽機や出芽機が正常に動作している保証はありません。シーズンの開始時には必ず試し運転をして、温度の誤差がないかを必ずチェックしてから、本作業に入るようにお願いします。

シーズン中は温度計を設置して毎日記録することもトラブル防止につながりますのでご検討ください。